

第1学年国語科学習指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 6校時
対 象 1年2組 男19名 女16名 計35名
指導者 八重樫 香織

1 単元名 いにしへの心にふれる (教材名 「今に生きる言葉」)

2 単元の目標

第1学年の目標
目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

- (1) 中国の古典に由来する言葉が、今も生活の中に生き続けていることを知ることができる。
- (2) 「矛盾」の故事を繰り返し音読し、漢文独特の言い回しに読み慣れることができる。

3 単元の評価規準

観点	B：おおむね満足できる
関心・意欲・態度	故事成語に関心をもち、その内容を進んで紹介しようとしている。
読む能力	古典の文章を紹介するために、文脈に即して語句の意味を捉えている。(ア) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して古典の文章を読み、紹介している。 (ウ)
言語についての知識・理解・技能	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れている。(ア (ア)) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨いている。 (イ (イ))

4 単元について

(1) 生徒について

本学級は、授業に真面目に取り組むことができる生徒が多い。しかし、自信がない事柄については消極的な面が見える。さらに、学習面での個人差があり、配慮を要する生徒も数人いる。

日常生活の中でことわざや故事成語を使う生徒はほとんどいない。ことわざはいくつか聞いたことがあっても意味を理解している生徒は1割程度であり、日常生活での活用にはいたっていない。故事成語の意味を知り、日常生活で活用できる場面を考え交流させることで語感を磨いていきたい。

(2) 教材について

本教材である漢文は、日本の古典を形成する一つの柱として、古くから重要な役割を果たしてきた。いっぽう、私達の言語生活においては、欧米からの外来語はおびただしい数に上る現状である。

しかし、日常使っている我々の言葉を振り返ってみると、今でも名言・名句・故事成語など、中国古典に由来するものを多数認めることができる。中国の故事成語は、日本の古典の中に取り入れられ、それが今日まで使われ、伝わってきたものであるから、それらは古典としての色を帯びている。故事成語は、古典であると同時に、今も生活の中で使われている言葉の一つなのである。

(3) 指導について

「場のつながり」としては、生徒が発表する際の文末表現に注意して話すようにさせたい。

「教材のつながり」として、本単元は1学年の「いろは歌」「竹取物語」に続く教材であり、2学年の「枕草子」「平家物語」「漢詩の風景」、3学年の「君待つと一万葉・古今・新古今」「夏草―おくのほそ道」「学びて時にこれを習う 論語」へと発展していく。1学年の古典学習の発展的学習として、故事成語を日常生活に結びつけた活動を行う。

「人とのつながり」としては、「自分の考えをもつ」場面として、故事成語の一つを選び、由来や意味、使われる場面を考えさせる場面を設定する。「互いの考えを交流する」場面として、小グループで学習シートをもとにまとめた内容を話し合う場面を設定する。「互いのよさに気づく」場面として、他グループの話し合いの様子を聞き、共感や表現方法を学ぶ場面を設定する。

5 単元の系統と他教科との関連

領域	小学校5年	小学校6年	中学2年	中学3年
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	竹取物語 枕草子 平家物語 論語	天地の文 狂言 柿山伏	枕草子 平家物語 扇の的 仁和寺にある法師 漢詩の風景	万葉・古今・新古今 おくのほそ道 論語

6 単元の指導計画（12時間扱い）

- (1) いろは歌 2時間
- (2) 七夕に思う 2時間
- (3) 蓬萊の玉の枝 4時間
- (4) 今に生きる言葉 4時間（本時3/4）
 - ① 教材計画・「矛盾」を音読する。
 - ② 「矛盾」を学習する。
 - ③ 故事成語の使用場面を考え、ショートストーリーを紹介する。
 - ④ グループごとにショートストーリーを寸劇でみんなに紹介する。

7 本時について

(1) 目標

故事成語を紹介するために、日常の場面に即して語句の意味を捉えることができるか。(読むこと)

(2) 「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「お互いの考えの良さに気づく^気」場面

本時の「自分の考えをもつ^自」は、自分が選んだ故事成語を使えるショートストーリーを考えるところである。「互いの考えを交流する^交」は、グループ内でショートストーリーを発表し、共感できる理由などを交流するところである。「お互いの考えの良さに気づく^気」は、他のグループで共感を呼んだショートストーリーを全体で確認するところである。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点(方法)
導入 5分	1 前時の学習内容を振り返る。 2 学習課題を知る 自分が選んだ故事成語の使用場面を紹介してみよう		○指導上の留意点●評価の観点(方法) ○「矛盾」の意味や由来を全員で確認する。 ○前時に自分が選んだ故事成語を確認する。
展開 40分	3 学習の流れを確認する。 4 自分で選んだ故事成語の意味・由来を調べ、それを使ったショートストーリーを考える。 5 グループ内で交流する。 6 全体で交流する。	㊦ ㊧ ㊨	○それぞれが選んだ故事成語について、資料集で意味・由来を調べて学習シートに記入する。その故事成語を使えそうな場面設定をして、ショートストーリーを考える。 ○ショートストーリーを作る条件は、 ①登場人物2人以上 ②セリフのやり取りを入れる。 ③5文以上の文章とする。 ○場面設定は、「友達を励ましたいとき」「友達に自慢したいとき」「ほめたいとき」「アドバイスしたいとき」「親に叱られたとき」「親におねだりしたいとき」など日常生活と結びつく場面を設定する。 ○4人グループで、司会を決めて発表を進めさせる。「まず、自分の選んだ故事成語の意味・由来と考えたストーリーを発表してもらいます。」全員発表「次に、自分も使ってみたいと思ったショートストーリーとその理由を交流します。」 ○交流の観点は、 ①身近な場面・話題だったか。 ②ショートストーリーに「なるほど」と共感できたか。 ③自分の日常生活で使えるショートストーリーだったか。 ○各グループで共感できたショートストーリーを発表させる。
終末 5分	7 今日の学習を振り返る。		○学習シートに記入する。 友達を選んだ故事成語の意味と使い方を知り、日常生活に役立てたい。 ●故事成語を紹介するために、日常の場面に即して語句の意味を捉えることができたか。(学習シート)

(4) 板書計画

今に生きる言葉

学習課題

自分が選んだ故事成語の使用場面を紹介しよう

○手順

① 選んだ故事成語について、資料集で意味・由来を調べて学習シートに記入する。

② 故事成語を使えそうな場面設定をして、ショートストーリーを考える

○ショートストーリーを作る条件

① 登場人物二人以上

② セリフのやり取りを入れる。

③ 五文以上の文章とする。